



NO. 9
吹田市立豊津西中学校
令和4(2022)年
12月21日 発行

学校目標 教育目標	《人格の形成をめざす》 《社会人としての資質を最大限に発揮させる》 《心身ともに健康な国民の育成をめざす》
--------------	---

全国学力学習状況調査について

教科に関する調査結果分析

国語

＜全国値より高く、引き続き伸ばしていきたいこと＞

○問題形式より

択一式の問題については、全ての受験者が全ての問題に解答をしている。

○評価の観点より

「知識・技能」の領域の問題のうち、特に漢字の書き取りや語句の意味などの、言語の知識に関する問題に関しては全国値を上回っているものが多かった。

＜全国値より低く課題となること＞

○問題形式より

記述式の問題は全国値を下回っている。

○評価の観点より

「思考・判断・表現」の領域のうち、特に「書く」領域の問題で無解答率が高い。

＜課題にむけて＞

第一に、文章を作成する際の基本的な法則、特に他者の意見を引用する際の法則をはじめとする、「説明的文章」を作成する際の法則への理解の深化が必要である。自分の考えの「根拠」の一つとなる、他者の意見の引用、文献の引用、出典を書く必要性など、自分の考えの深化と発展に向けた「他者の意見の使い方」を指導する必要がある。

方策としては、説明的文章を授業で扱う際にその構成を意識させることや、3年間を通した「作文講座」などを国語科の授業の中に意識して組み込むことなどが挙げられる。また、他校の実践例である「作文作成の手引き」を学校全体の取り組みとして作成することも一つの方法であろう。

文章の書き始めで大きくつまづく生徒や、文章の組み立て方がはっきりしていない生徒、また、そもそも文章を書くことのメリットがつかめない生徒など、本校は文章作成の能力育成に向けての課題が山積している。書く量にこだわるだけではなく、その「質」の向上の担保に向けて、文章作成を指導する側も、大いに研鑽する必要がある。

数学

＜全国値より高く、引き続き伸ばしていきたいこと＞

○「数と式」

「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」割合は、全国値を上回った。

○「図形」

「反例の意味を理解している」割合は、全国値を上回った。

○「資料の活用」

「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」割合は全国値を上回った。

＜全国値より低く課題となること＞

○「数と式」

「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」割合は、全国値を下回った。

○「図形」

「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」割合は、全国値を下回った。

○「関数」

「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」割合は、全国値を下回った。

○「資料の活用」

「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」割合は、全国値を下回った。

＜課題にむけて＞

・依然として「知識・技能」が弱い生徒もいるので、反復練習の機会として、今後も「小テスト」を引き続き行うことで、的確に計算処理する力をつけていきたい。また、今回は無回答率が高かったため、解答を答えきる意識も上げていきたい。

・授業内容やテストを工夫することで、数学のきまりや定理を日常の場面とつなげて考える機会をより充実させていきたい。また、数学科の中だけでなく、理科や技術科など他教科や、総合的な学習の時間との共通項を見つけることで、年間のカリキュラムの中に、数学の授業が活用されるような場面も設定していきたい。そうすることで、数学の力が生徒にとって進路を切り拓く力になるようにしていきたい。

理科

＜全国値より高く、引き続き伸ばしていきたいこと＞

○「エネルギー」を柱とする領域

「実験条件を変えて行う意味を理解している」割合は、全国値を上回った。

○「粒子」を柱とする領域

「水素の燃焼を化学反応式で表すことができる」割合は、全国値を上回った。

○「生命」を柱とする領域

「昆虫類と他の生物との共通点、相違点を理解している」割合は全国値を上回った。

○「地球」を柱とする領域

「天気の変化を分析して解釈できる」割合は全国値を上回った。

<全国値より低く課題となること>

○「エネルギー」を柱とする領域

「水素を使った燃料において必要なものを指摘する」割合は、全国値を下回った。

○「粒子」を柱とする領域

「実験の結果が考察の根拠になりえるか検討し、計画を改善できる」割合は、全国値を下回った。

○「生命」を柱とする領域

「アリの視覚による行列のつくり方から、課題に正対した考察を行う」割合は、全国値を下回った。

○「地球」を柱とする領域

「過去の大地の変動について、推論した他者の考察を検討して改善する」割合は、全国値を下回った。

<課題にむけて>

・「思考・判断・表現」に比べて「知識・技能」の観点の正答率が低いため、日々の授業のなかで復習の時間を増やしていき、知識の定着を大事にして「深い学び」にしていきたい。また、単元ごとのふり返りでは、その単元の学習によって身についた知識や考え方を細分化してまとめることで、自己分析による苦手分野の発見につなげていきたいと考えている。

・「記述式」の問題形式では無回答率が全国値と比べて多かった。知識として学習した内容が、問題として出てきたときに自分の言葉で説明できない生徒が多いと考えられる。この結果を踏まえ、授業の発問にて出された課題をグループワークで取り組み、自らの言葉で発表する機会を増やしていくことで、課題に対する考えを言語化させていきたいと考えている。

生徒質問紙に関する調査結果分析

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感など

「先生は、あなたのようによいく所を認めてくれていると思いますか」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」「自分には、よいく所があると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「友達と協力するのは楽しいと思いますか」については全国値を上回った。

「将来の夢や目標を持っていますか」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」については全国値を下回った。

基本的生活習慣など

「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」については、全国値を下回っている。

「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」については、全国値を上回った。

学習習慣、学習環境など

「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」については、「よくしている」「ときどきしている」との回答が全国値より下回っている。

「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」については、「4時間以上」の回答が全国値を大幅に下回っており、「全くしない」の回答が全国値の3倍の値である。

ICTを活用した学習状況

「1,2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）」「学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」について「ほぼ毎日使用している」の回答が全国値より大幅に下回っているが、「週3回以上」はほとんど変わらず、「週1回以上」まで合わせると全国値と変わらない。

今後の取組

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果から、これまでの指導を活かしつつ、次のような取組みを進めます。

- 各教科の基礎学力の向上のために授業を通して取り組んでいきます。
各教科の見方・考え方（各教科で使われる言葉やキーワード、価値や物事のとらえ方や考え方）を今まで以上に働かせながら学習することで、それらを使って自分の考えを整理したり組み立てたりして、自分の考えを言葉で表現できるような力をつけていきます。
- 習熟度別授業や少人数授業など、個に応じたきめ細かな指導を推進します。
- シンキングツールやICTを有効に活用した指導方法の研究を進めます。
- 生徒会、学級委員会で「月目標」を定め、生徒自ら進んで、学校生活の改善に取組めるよう、環境を整えます。
- 授業、学校行事、その他、学校教育活動全体を通じて、普段からお互いを認め合い協力しあえる集団づくりを目指します。
- 「道徳」「特別活動」を充実させ、「自己肯定感」「自己有用感」を高めるとともに、集団や社会の一員として果たす役割を考えさせます。
- 朝読書を中心に、読書活動の充実を図ります。